

## 外用殺菌消毒剤

# アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩消毒液 10%「メタル」

## Alkyldiaminoethylglycine Hydrochloride Disinfectant Solution 10%

貯 法： 室温保存  
 使用期限： ラベルに表示

承認番号	22200AMX00565
薬価収載	2010年11月
販売開始	2010年11月
再評価結果	※ 1982年8月

※旧販売名による

## 【組成・性状】

組成	有効成分	本品1g中にアルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩100mgを含む。
	添加物	pH調整剤
製品の性状		本品は帯黄色の粘性な液で、わずかに特異なおいがある。

## 【効能・効果】【用法・用量】

アルキルジアミノエチルグリシンとして、下記の濃度になるように水で希釈して次のように使用する。

- 手指・皮膚の消毒  
0.05～0.2%溶液（50～200倍希釈溶液）で約5分間洗った後、滅菌ガーゼ或いは布片で清拭する。
  - 手術部位（手術野）の皮膚の消毒  
0.1%溶液（100倍希釈溶液）で約5分間洗った後、0.2%溶液（50倍希釈溶液）を塗布する。
  - 手術部位（手術野）の粘膜の消毒、皮膚・粘膜の創傷部位の消毒  
0.01～0.05%溶液（200～1000倍希釈溶液）を用いる。
  - 医療機器の消毒  
0.05～0.2%溶液（50～200倍希釈溶液）に10～15分間浸漬する。
  - 手術室・病室・家具・器具・物品などの消毒  
0.05～0.2%溶液（50～200倍希釈溶液）を布片で塗布・清拭するか、又は噴霧する。
- なお、結核領域において、上記4、5に用いる場合は0.2～0.5%溶液（20～50倍希釈溶液）を用いる。

## 【使用上の注意】

## 1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類\頻度	頻度不明
過敏症	発疹、そう痒感 等

## 2. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤で消毒したカテーテルで採取した尿は、スルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

## 3. 適用上の注意

## (1) 人体

使用時

- 外用にのみ使用すること。
- 原液又は濃厚液が眼に入らないように注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。
- 散布消毒の場合はマスクを着用するなど注意すること。
- 濃厚液の使用により、皮膚・粘膜の刺激症状があらわれることがあるので、注意すること。
- 炎症又は易刺激性の部位に使用する場合には、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望ましい。

6) 粘膜、創傷面又は炎症部位に長時間又は広範囲に使用しないこと。

## 調製時

深い創傷に使用する場合は希釈液としては、注射用水か滅菌精製水を用い、水道水や精製水を用いないこと。

## (2) その他

使用時

石けん類は本剤の殺菌作用を弱めるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。

## (3) 緊急処置

## 1) 眼に入った場合

洗浄の際、眼球、瞼のすみずみまで水がよく行きわたるように、清浄な水で15分以上眼を洗浄した後、直ちに適切な処置を行うこと。

## 2) 飲み込んだ場合

水でよく口を洗い、水又は牛乳を飲ませ（無理に吐き出さない）、直ちに適切な処置を行うこと。

## 【薬効薬理】

- 本剤は、両性界面活性剤で、強い殺菌力と洗浄力の両作用を有し、蛋白質、脂肪共存下でも殺菌力の低下が少ない。
- 本剤は、使用濃度において緑膿菌、結核菌、一般細菌、真菌等に有効であるが、肝炎ウイルスに対する殺菌効果は期待できない。

## 【取扱い上の注意】

- 次の医薬品が混入すると、沈殿が生じるので注意すること。ヨードチンキ、マーキュロクロム、硝酸銀、フェノール、過酸化水素、過マンガン酸カリウム等
- 本剤は多少色調の濃淡に差があることがあり、また、寒冷時にわずかに混濁を生じることがあるが、殺菌効果には影響はない。混濁は加温することにより溶解する。
- 金属器具を長時間浸漬する必要がある場合には、腐食を防止するため0.1～0.5%の割合で亜硝酸ナトリウムを溶解すること。

## 【包装】

500mL

## 【文献請求先】

中北薬品株式会社 製薬工場事業部  
 〒496-0016 愛知県津島市白浜町字番場52-1  
 TEL 0567-32-1431  
 FAX 0567-32-2961

製造販売元

 **中北薬品株式会社**  
 愛知県津島市白浜町字番場52-1